

議 事 録

研究班総会議事録

日 時 昭和52年3月5日 9:30-17:30

場 所 学 士 会 館

出席者 井上英二(主任研究者), 井関尚栄, 高原滋夫(以上評価委員), 松永英, 田中克己, 半田順俊(以上幹事), 和田義郎(荒川雅男幹事代理), 岡田善雄, 荻田善一, 尾崎公已, 荻田幸雄, 林昭, 佐々木本道, 美甘和哉, 古庄敏行, 大浦敏明, 成瀬浩, 藤木典生, 大倉興司, 桑木努(以上分担研究者および代理), 松本雅彦, 野間英晴, 山村研一, 末原則幸, 金豊栄, 浅香昭雄, 南光進一郎, 朴京淑(以上研究協力者およびオブザーバー), 近藤健文, 中原俊隆(以上厚生省母子衛生課), 津田威(経理事務担当者), 清水郁子(事務担当)

議 事

井上より挨拶があり, ついで下記の次第で, 各班員より, 昭和49年度から昭和51年度までの3年間の研究成果報告と, これについての質疑応答が行なわれた。なお昼休みを利用して, 昭和51年度経理報告・研究成果報告について事務連絡が行なわれた。又, 総合討論後, 井上から3年間の研究協力に対する謝意, 高原・井関から研究班に対する感想が述べられ, また厚生省からは挨拶があった。

研究成果報告次第

副 課 題 1	座長 和田義郎(荒川雅男代理)
先天性代謝異常症の細胞学的診断に関する研究	岡 田 善 雄
先天性代謝異常症とその保因者診断法に関する研究	荻 田 善 一
羊水と羊水細胞の生理学的研究	尾崎公已(倉智敬一代理)
羊水細胞培養法の研究	荻 田 幸 雄
	松本 雅彦(須川侑代理)

先天性代謝異常症の診断に関する研究	和田義郎(荒川雅男代理)
先天性代謝異常症・分子病の発生予防 に関する遺伝生化学的研究	林昭(山村雄一代理)
副課題 2	座長 松 永 英
染色体異常個体の有病率と発生率に関する研究	松 永 英
染色体突然変異原に関する研究	美 甘 和 哉
染色体検査技術の水準向上とその応用に関する研究	佐々木 本 道
副課題 3	座長 井 上 英 二
経験的遺伝子後に関する研究	古 庄 敏 行
双生児法による心身障害の成因に関する研究	井 上 英 二
遺伝性障害に関する資料の相互利用に関する研究	大 浦 敏 明
副課題 4	座長 田 中 克 己
先天性代謝異常症のスクリーニングに関する研究	成瀬浩(森山豊代理)
集団の遺伝的荷重に及ぼす遺伝病治療の影響に 関する研究	松 永 英
遺伝性疾患の頻度ならびにこれに影響する諸要因の研究	田 中 克 己
副課題 5	座長 半 田 順 俊
心身障害発生予防法の遺伝学的適応に関する研究	藤 木 典 生
遺伝相談資料の整備とネットワーク運営に関する研究	半 田 順 俊
遺伝カウンセラーの教育と研修に関する研究	大 倉 興 司
遺伝医学と倫理に関する研究	桑 木 務

総合討論

第1回幹事会議事録

第2回幹事会議事録

日 時 昭和52年3月5日 17:30-18:30

場 所 学 士 会 館

出席者 井上英二（主任研究者），松永英，田中克己，半田順俊（以上幹事），
和田義郎（荒川雅男幹事代理），近藤健文，中原俊隆（以上厚生省母子衛生
課），南光進一郎（事務担当）

報 告

1. 厚生省より昭和52年度政府予算案に，本研究班の成果に基いた先天性代謝異常のスクリーニングと遺伝相談の2つがとり上げられ，これらが行政レベルで行なわれる見とおしである旨の報告があった。

議 事

1. 井上より昭和51年度経理報告・研究報告書の内容・期限及び報告書刊行等の事務手続について説明があった。
2. 昭和52年度以降の研究班の組織・研究課題及び担当者について，井上の原案に基いて協議を行った結果，以下のテーマを当研究班の原案とし，これを厚生省側で検討することが了承された。
 - イ) 遺伝相談の運営・普及ならびに水準向上
 - ロ) 先天異常の遺伝疫学
 - ハ) 遺伝性疾患の診断と発病機構
 - ニ) 病因究明のための開発研究
3. 当研究班の解散から新研究班の設置まで，主として研究計画を審議するための一時的な機構をおき，井上・松永・半田・和田がその任にあたる事が了承された。
4. 昭和52年度の課題名について「遺伝・環境要因による心身障害の予防方策に関する研究」をその候補とする事が了承された。

評 価 委 員 会 議 事 録

日 時 昭和52年3月5日 17:50 - 18:30

場 所 学士会館

出席者 井関尚栄・高原滋夫（以上評価委員）清水郁子（事務担当）

議 事

昭和49年度より昭和51年度までの3年間の遺伝研究班の研究について

協議し、次の意見を幹事会に提出することが了承された。

「各分担研究者の方々の真剣な御努力により、色々の方面で格別の進展がみられ、この研究班の成果は注目に値するものと思われる。それら成果に関連して、かねてから人類遺伝学者がその設置を希望していた、遺伝疾患のスクリーニング、遺伝カウンセラーの養成もこの3年間に試験的に実施に移され、実施可能の見通しを得て、今後我国の行政面に反映して頂くことになった事は喜びに堪えない。それにつけてもこの様な人類遺伝学研究班がなんらかの形でこのこされ、更に数年継続されることを切望する。」

幹事評価委員合同委員会議事録

日 時 昭和52年3月5日 18:30-19:00

場 所 学士会館

出席者 井上英二(主任研究者)、井関尚栄、高原滋夫(以上評価委員)、松永英、田中克己、半田順俊(以上幹事)、和田義郎(荒川雅男幹事代理)、近藤健文、中原俊隆(以上厚生省母子衛生課)、津田威(経理事務担当者)、南光進一郎、清水郁子(以上事務担当)

議 事

1. 評価委員会の意見が発表された。
2. これに基いて、来年度以降の研究班の持続期間を協議し、3年間は必要であるということで意見の一致をみた。これに対し厚生省側で検討する旨の発言があった。
3. その他心身障害の発生子防に関連する全般的な問題について意見の交換が行なわれた。

分 科 会 議 事 録

副課題1(第1回)

日 時 昭和52年2月19日(土) 14:00-18:30

場 所 宮城県医師会館(仙台市)

出席者 井上英二(主任研究者)、荒川雅男(幹事)、岡田善雄(分担研究

者), 宮地隆興, 多田啓也, 北川照男, 鈴木義之, 藪内百治, 松田一郎(以上研究協力者), 尾崎公巳, 荻田幸雄, 林昭, 日高和夫, 藤井寿一(以上分担研究者又は研究協力者の代理), 野間永晴, 松本雅彦, 大和田操, 岡田伸太郎, 荒島真一郎, 成沢邦明, 斉藤峻, 早坂清, 和田義郎(以上オブザーバー及び事務担当者)

議 事

1. 荒川より昭和51年度の研究協力に対する謝辞があり, 今年度をもって厚生省心身障害研究班遺伝班の研究は予定の3年間を終了する旨の挨拶が述べられた。
2. 井上主任研究者から厚生省心身障害班遺伝班の研究が3年間の内に所期の目標以上の成果を挙げたこと, 特に遺伝相談と新生児マススクリーニングの2課題が昭和52年度の行政面に採り上げられることになったことについて報告がなされた。
3. 和田より昭和51年度の研究業績報告と経理報告の書式の変更の件及び提出期限についての連絡がなされ, これについて質疑応答があった。
4. 其後は以下のプログラムに従って昭和51年度の各班員の研究成果が順次報告され白熱した討論の未定刻に散会した。

昭和51年度 研究成果報告次第

1. 先天性代謝異常症の細胞学的診断に関する研究
岡 田 善 雄 (阪大・微研)
2. 毛根を用いた微量電気泳動法による保因者診断法
荻 田 善 一 ・ 山 村 研 一 (富山大・和漢薬研)
3. 羊水と羊水細胞の生理学的研究
倉 智 敬 一 ・ 尾 崎 公 巳 (阪大・産婦人科)
4. (1)羊水細胞培養に関する研究
(2)胎児発育に伴う羊水中の Amylase isozyme の発育分化
須 川 侑 ・ 荻 田 幸 雄 ・ 野 間 永 晴
松 本 雅 彦 (阪市大・産婦人科)

5. ヘモグロビン異常症：Hb Matsue-Oki について
宮地 隆興 ・ 大庭 雄三 ・ 松岡 美代子
(山口大・中央検査部)
6. ニーマンピック病の出生前診断
多田 啓也 (阪市大・小児科)
7. I-cell 病の出生前診断とその酵素異常
北川 照男 ・ 大和田 操 ・ 崎山 武志
(日大・小児科)
8. 出生前診断の問題点について
鈴木 義之 (東大・小児科)
9. (1) ムコリピドーシスにおけるライソゾーム酵素の動態
(2) クロフィプレートによる糖原病の治療
藪内 百治 ・ 岡田 伸太郎 (阪大・小児科)
10. 先天性代謝異常患者由来のリンパ球の株化と長期培養
松田 一郎 ・ 大塚 博史 ・ 山本 治郎
(熊本大・小児科)
荒島 真一郎 (北大・小児科)
11. 各種先天性代謝異常症におけるプリン代謝関連酵素活性について
荒川 雅男 ・ 和田 義郎 ・ 成沢 邦明
(東北大・小児科)
12. 赤血球酸素平衡曲線自動測定法による赤血球異常症のスクリーニング
林 昭 (阪大・内科)
13. 異常血色素症 Hb Kurashiki および Hb Asabara の構造決定
柴田 進 ・ 日高 和夫
(川崎医大・内科, 生化学)
14. Pyrimidine 5'-nucleotidase 欠乏症について
三輪 史朗 (山口大・内科)

副課題 2 (第 1 回)

日 時 昭和 51 年 11 月 20 日 12:00 - 13:00

場 所 京都会館会議室

出席者 松永英(幹事), 美甘和哉(分担研究者), 外村晶, 日暮真, 阿波章夫, 黒木良和(以上研究協力者), 飯沼和三(中込弥男研究協力者の代理), 柳沢慧(小西俊造研究協力者の代理)。

議 事

1. 松永より経理事務の取り扱いについて今年度より改められた事項の説明がなされ, 若干の質疑応答がなされた。
2. 日本人類遺伝学会第 21 回大会が当日京都会館にて開催され, 各研究分担者および研究協力者はその研究成果を発表したので, これについて自由討議と研究連絡を行った。

副課題 2 (第 2 回)

日 時 昭和 52 年 2 月 26 日 9:30 - 17:30

場 所 東京医科歯科大学 1 号棟会議室

出席者 井上英二(主任研究者), 松永英(幹事), 佐々木本道, 美甘和哉(以上分担研究者), 日暮真, 浅香昭雄, 外村晶, 阿波章夫, 柳沢慧, 山田清美, 宇多小路正, 有馬正高, 黒木良和, 飯沼和三, 飯島久美子, 小野和郎, 中井博史, 松原俊子, 上口勇次郎, 岸邦和, 松本美枝子, 南光進一郎, 松井一郎, 山本佳史, 祖父尼俊雄, 岡成寛(以上研究協力者およびオブザーバー) 津田威(経理担当者)。

議 事

1. 下記のプログラムに従って, 細分課題 7.8.9 の分担研究者並びに研究協力者より, 研究成果の発表があり, それに対する討論がなされた。
2. 井上から今年度は厚生省班研究の最終年度であることに関連して, 挨拶があった。
3. 東大医学部脳研究所の津田威事務官より, 経理関係の説明がなされた。

プログラム

- | | | |
|-----|--------------|---------------|
| 1. | 浅香 昭雄：細分課題7 | 9:30 ~ 9:55 |
| 2. | 外村 晶：〃 | 9:55 ~ 10:20 |
| 3. | 黒木 良和：〃 | 10:20 ~ 10:45 |
| 4. | 松永 英：〃 | 10:45 ~ 11:10 |
| 5. | 阿波 章夫：〃 | 11:10 ~ 11:35 |
| 6. | 有馬 正高：〃 | 11:35 ~ 12:00 |
| | 昼 食（事務連絡等） | 12:00 ~ 13:00 |
| 7. | 日暮 真：細分課題7・8 | 13:00 ~ 13:40 |
| 8. | 佐々木本道：〃 7・9 | 13:40 ~ 14:20 |
| 9. | 美甘 和哉：〃 8 | 14:20 ~ 14:45 |
| 10. | 佐々木正夫：〃 | 14:45 ~ 15:10 |
| | 休憩 | 15:10 ~ 15:40 |
| 11. | 小西 俊造：細分課題9 | 15:40 ~ 16:05 |
| 12. | 宇多小路正：〃 | 16:05 ~ 16:30 |
| 13. | 山田 清美：〃 | 16:30 ~ 16:55 |
| 14. | 中込 弥男：〃 | 16:55 ~ 17:20 |

副 課 題 3

日 時 昭和51年11月20日 12:00 - 13:30

場 所 京都会館第5会議室（京都市）

出席者 井上英二（主任研究者），古庄敏行，大浦敏明，荻田善一（以上分担研究者），平山清武，松井一郎（以上研究協力者），浅香昭雄（オブザーバー）

議 事

1. 井上より，本年度末における各細分課題の研究進行状況の見通しをつけて，これを来年度以降の研究計画の参考としたい旨のべられた。
2. 古庄より，細分課題10，経験的遺伝予后に関する研究の進行状況が報告された。約40疾患についてはコンピューター入力終了し，昭和51年2月には残余の疾患について入力終了する予定である。来年度以降は

継続的な追加情報の入力が必要であり、これによって一そう効果的な使用が可能となる旨のべられた。

3. 井上より、細分課題11、双生児法による心身障害の成因に関する研究の本年10月現在の進行状況がまとめて報告され、ついで松井、古庄、平山より各地域における状況が追加報告された。今後の課題としては、コンピューター入力、他の医療情報とのレコードリンクージ、長期間にわたる資料の補充、管理および利用の方法、副産物としての多胎出産頻度の検討等があることが指摘された。なお昨年度厚生省統計情報部が行なった複産調査の資料を本細分課題の目的に沿って保存利用する方法に関して検討が行なわれた。
4. 大浦より、細分課題12、遺伝性障害に関する資料の相互利用に関する研究について、従来の研究経過および今後の見込みについて報告された。とくに、全国を数地区に分け、それぞれの地域に細胞バンクを設立することが急務であることが強調され、今後その設立に向かって努力することが申し合わされた。

細分課題10（第1回）

日時 昭和51年5月21日 10:00 - 15:00

場所 東京医科歯科大学第1会議室

出席者 古庄敏行（分担研究者）、西田尚史、古賀慶次郎、古屋光太郎、大沢真木子、荻野洋一、林健児、工藤昭夫、安藤正彦、山本晴康、樋口二三男、陣内富男、谷村雅子（以上研究協力者および代理）

議 事

資料分析のため、コード表記入方法について打合せを行い、一部、分析した結果について報告し、今後の分析法について検討した。その結果、1) 単純遺伝仮説の適合、2) 近親婚率、3) 同胞再現率を至急分析することにした。

その他、疾患によってはさらに家系調査例数を増すこと、データーシート記入を10月までには完了することなど申し合わせた。

細分課題10(第2回)

日時 昭和51年11月27日 10:00-16:00

場所 東京医科歯科大学第1会議室

出席者 古庄敏行(分担研究者), 古屋光太郎, 近藤喜代太郎, 藤木慶子, 佐作成子, 大沢真木子, 星栄一, 松嶋四郎, 安藤正彦, 飯島久美子, 西田尚史, 古賀慶次郎, 谷村雅子(以上研究協力者および代理)

議 事

資料の整理が完成した分について, 1) 単純遺伝仮説の検討, 2) 近親婚率, 3) 同胞再現率 について分析した結果を配布し, それぞれ意見交換を行った。その結果, なお調査例数を増す必要があること, 一般集団中の頻度がわかっている疾患については多因子分析を行うこと, 報告書はなるべく早く提出することなどを申し合わせた。なお, このような調査は今後も何らかの形で続行すべきであるとの意見が, 出席者の多数よりのべられた。

細分課題12

日時 昭和52年2月24日(木) 13:30-17:00

場所 東京ステーションホテル

出席者 大浦敏明(分担研究者), 北川照男, 一色玄, 川辺昌太, 丸山博, 稲垣直, 真野敏明(以上研究協力者および代理)

議 事

1. 事務連絡。大浦より必要な連絡事項の伝達と, それに対する質疑が行なわれた。
2. 大阪における学童検尿による糖尿病, シスチン尿症および細菌尿のマス・スクリーニング成績を一色および大浦より発表した。

昨年度北川により東京都学童生徒22万人を対象とした小児糖尿病のマス・スクリーニングの発表があり, その頻度が10万対12人とされた。これと対比して, 大阪においても同様のマス・スクリーニングを実施し, その成績を発表した。東京も本年度はシスチン尿症のスクリーニングを開始したので, 大阪もそれにならい, さらに細菌尿, とくに無症候性細菌尿の検査を付け加えた。対照は小学校10, 中学校1で合計8,788人であった。

その結果、2人の糖尿病が発見され、うち1人の祖母は糖尿病で、白内障を合併することを知った。

シスチン尿症に関しては、2回連続陽性者0.57%、これらの尿を乳酸菌でbioassayし、15mg/dl以上(0.17%)の15人の尿をカラムクロマトグラフィーにより分析中である。

細菌尿では、尿採取から検査までの時間が問題となり、検査までに長時間を経過した尿には細菌が繁殖し、成績が不定であったので、第2次検尿は朝学校で早朝尿を集めて直ちに検査した。連続2回陽性で、菌数 10^5 以上のもの17例を発見した。うち1例はすでに既往歴があり治療を受けていたので、無症候性細菌尿は16例(0.19%)であった。これらにIVPおよび逆行性膀胱尿管造影を行ない、2例の尿管逆流現象、うち1例は右側水腎症を示した。その他4例に膀胱炎の所見を認めた。現在教育委員会では、学校検尿が義務づけられているので、その尿を利用して、糖尿、細菌尿を検査することは有意義なものと考えられた。ただ、シスチン尿症に関しては、北川の成績にある如く頻度が低いので、問題があろう。

3. 東京における糖尿病とシスチン尿症のマス・スクリーニングについて発表された。昭和49年度東京都内の同一地区で学童生徒22万人を対象とし、50年、51年と三度調査が行なわれた。その結果、昭和49年度9人、昭和50年度3人、昭和51年度5人の糖尿病患者を発見し、22万人中毎年新しく発病する小児糖尿病患者は3~5人と推定された。この大規模な調査はわが国で始めてであるだけでなく、世界的にもユニークなもので、大きな貢献である。

シスチン尿症は85,678人について実施し、試験紙で(+)以上のもの0.07%、蛋白尿・血尿陽性尿で(+)以上のもの0.05%で差を認めなかった。シスチン、リジンおよびアルギニンのbioassayを行なったが、確実にホモ接合体のシスチン尿症と診断されたものは1人もなかった。これよりすると、シスチン尿症は、一般集団中ではかなり低い頻度であることが想像される。

4. 川辺、丸山、稲垣が小児糖尿病の遺伝学的研究について発表を行なった。小児糖尿病の遺伝型式はかなり複雑で、川辺、丸山らともに結論には至ら

なかった。年齢的に5才以下と5才以上のものとの、その発病機転と病像にいくらか差があるように思われたが、今後の検討にまつところが多い。川辺は近親結婚率が7.88%で、一般集団よりもやゝ高いと報告した。東京グループは、HLAとの関係を調査中であるので、その方の知見の進展は期待される。

5. 井上班長、有馬協力者との共同作業による先天性代謝異常症検査機関名簿について大浦が簡単に説明した。このような調査は、有馬がすでに昭和49年に一度行なっているが、2年を経過しその内容は大きく変化したので、より最新のものを作る必要性が確認された。これにより、研究と治療の進歩が期待され、今後はおそらく2年毎の改訂が必要であろう。今回のものは、印刷に付して、全国の大学と主要病院、ならびに遺伝相談ネットワーク委員会に配布される予定である。

細分課題 13

日時 昭和52年2月25日 13:00 - 17:00

場所 学士会館本郷分館

出席者 井上英二(主任研究者)、森山豊(分担研究者)、五味洵政人、皆川進、荒島真一郎、和田義郎、鈴木義之、北川照男、大和田操、鈴木健、成瀬浩、加藤進昌、出口義智子、伊東富佐子、鴫田恵美子、赤堀美恵子、石井澄和、鈴木直雄、大久保暢夫、柴田実、岡田喜篤、山田素子、大浦敏明、多田啓也、一色玄、高坂睦平、有馬正高、安東吾郎、芝滝京子、山下文雄、芳野信、渋谷幸彦、近藤昌子、松田一郎、大倉興司(以上研究協力者およびオブザーバー)、近藤健文、中原俊隆(以上厚生省母子衛生課)

議 事

1. 班員により15題の研究報告が行われ、討議を交換した。
2. 事務連絡
3. 代謝異常スクリーニング全国実施の準備およびこれに関する来年度予算について報告があった。
4. 井上、大倉と共に、遺伝相談と代謝異常スクリーニングとの関連について討議を行った。

細分課題 13 (幹事会)

日時 昭和52年3月4日 14:00-19:00

場所 学士会館

出席者 森山豊(分担研究者), 五味渕政人, 荒島真一郎, 和田義郎, 北川照男, 青木菊磨, 成瀬浩, 川村正彦, 大浦敏明, 多田啓也, 有馬正高, 松田一郎(以上研究協力者およびオブザーバー), 北川定謙, 近藤健文, 後藤英司(以上厚生省母子衛生課)

議 事

3年間の研究成果にもとづいて、今後の代謝異常スクリーニングの全国実施について討議した。

スクリーニング対象, スクリーニングの手技, スクリーニングを行う施設, 全国普及のための啓蒙, 全国実施後の問題点などを討議した。

この討議の結果は、4月中に森山研究班報告書として関係方面に提出することをきめた。

細分課題 15

日時 昭和52年1月24日 11:00-16:00

場所 東京医科歯科大学第2特別会議室

出席者 田中克己(分担研究者), 柳瀬敏幸, 中島章, 藤木典生, 近藤喜代太郎, 今泉洋子, 安田徳一, 藤木慶子, 成瀬浩, 谷村雅子, 早瀬玲子(以上研究協力者およびオブザーバー)

議 事

1. 研究報告および討論 班員・協力者より研究成果を報告し、討議が行われた。
2. 総合討論 本研究課題全般の研究に関し活発な討論が交わされた。
3. 来年度計画 田中分担研究者から大略の説明を行い、研究協力者より質問・希望・計画などが述べられた。
4. 事務連絡 昭和51年度経理報告および成果報告の書式・提出期限などについて田中から説明し、質問などが出された。

細分課題 16 (第 1 回)

日 時 昭和51年12月20日 10:00-18:00

場 所 愛知県瀬戸市川平町(定光寺)愛知県労働者研修センター

出席者 藤木典生, 半田順俊(以上分担研究者)松井一郎, 長谷豊, 玉木健雄, 白井泰子, 大谷歌代子(以上研究協力者及びオブザーバー)

議 事

1. 藤木より事務報告及び研究連絡事項の説明があった。
2. 各班員より, 遺伝相談の夫々のシステムの中での功罪, 改良すべき点などについて, この3年間のまとめが報告された。
3. これまでの討議をもとに, 遺伝医学の適応をきめるにあたって, 一般の人々がどのように遺伝を考えているのか, 遺伝相談に来た人々がどのように理解し, 判断したか, カウンセラーがどのような適応に対する考え方から独自の相談を進めているかを知ることの必要性から, これまで国内外で行われたフォローアップの資料を参考にして, アンケートの粗案が討議され, 実行に移されることになった。
4. アンケートの結果にもとづいて適応のガイドラインが決められるべきであるが, 班員の間でまとめてガイドライン案を作るべく粗案について討議された。
5. ガイドライン案を班会議に3年間の一応のまとめとして提出すると共に今後もこれらの案が広く討議されるよう努力することが確認された。

細分課題 16 (第 2 回)

日 時 昭和51年11月12日 13:00-18:00

場 所 愛知県コロニー発達障害研究所

出席者 藤木典生, 桑木務(以上分担研究者), 岡田喜篤, 大石英恒, 林幸正, 西垣逸郎, Vergnes.H, (以上オブザーバー)

議 事

1. 細分課題19の分担研究者桑木が心身障害の実態を知るために来訪されたことが紹介された。
2. フランス, トルース国立科学研究所 Vergnes 部長をまじえて, 心身障

害に対する意識について、日仏間の相違について検討を加えることが出来た。

3. 心身障害対策の現場にいるものの具体的な悩みについて提示し、倫理的な考察についても討議を行なった。
4. 今後とも現場の生物学，医学者と倫理，社会あるいは心理学者の共通の場での討議のもたれることの望ましいことが結論づけられて散会した。

細分課題 17, 18 合同会議（第 1 回）

日 時 昭和 51 年 5 月 12 日

場 所 東京医科歯科大学

出席者 半田順俊，大倉興司（以上分担研究者），松田健史，宮下力，古屋光太郎（以上研究協力者およびオブザーバー）

議 事

1. 半田より前年度の経過を報告し，本年度の実行計画の概略を説明した。
 2. 細分課題 17 については，前年通り遺伝相談資料の収集および配布を行うが，本年はほん訳を行う方法を検討する。
 3. 前年度に日本人類遺伝学会遺伝相談ネットワーク委員会と協同して作成した「遺伝相談の現在と将来」と題する報告書を関係者に配布し，意見を求めたうえ，最終案の完成に向け作業を進めることにした。
 4. 細分課題 18 については，本年度は医師を対象とする研修を 1 回開催し，研修方法の最終案を作成する。
 5. 大阪市の遺伝相談計画に協力し，保健婦の研修計画および研修を援助する。
- 以上の点を討議し，本年度計画として了承された。

細分課題 17, 18 合同会議（第 2 回）

日 時 昭和 51 年 6 月 27 日

場 所 東京医科歯科大学

出席者 半田順俊，大倉興司（以上分担研究者），井関尚栄（評価委員）

議 事

1. 遺伝相談のカウンセラーとして研修を受けた者が、十分な責任のもとに実務に当るためには、訓練されたカウンセラーであることの資格を与えることが必要と考えられ、この点に関し研修方法、資格認定のあり方などを合議した。この結果、関連学会等からも委員の参加を求め、資格認定の是非を検討してゆくことに決定した。

細分課題17,18 合同会議(第3回)

日 時 昭和51年8月5日

場 所 東京医科歯科大学

出席者 半田順俊, 大倉興司(以上分担研究者), 松田健史, 古屋光太郎,
宮下力(以上研究協力者およびオブザーバー)

議 事

1. 本年8月下旬から行う医師の研修における基本方針の討議を行い、基本的には前年度と変らぬが、演習の時間を増やし、具体的問題を自ら処理する訓練を重視することとした。これに伴う例題、練習問題を準備する。
2. 前年度までの研修修了者から得た研修に対する感想、意見を検討し、研修内容につき、特に重点的に行うべき問題点を検討し、示説する症例などの検討をした。
3. 新たに研修開始直後に、適当に選んだ問題についてテストを行い、遺伝学に関する知識の水準をまず把握し、研修内容に調節を行うこととし、問題の選定を行った。

細分課題17,18 合同会議(第4回)

日 時 昭和51年11月18日

場 所 京都会館

出席者 半田順俊, 大倉興司, 藤木典生(以上分担研究者), 松田健史, 北川照男, 日暮真, 角谷哲司, 高島敬忠, 宮下力, 矢橋弘嗣(以上研究協力者およびオブザーバー)

議 事

1. 日本人類遺伝学会遺伝相談ネットワーク委員の参加を得て、以下の報告と討議を行なった。
2. 報告書「遺伝相談の現在と将来」に対する意見などを説明し、最終稿作成の状況と予定を報告した。
3. 医師の研修の結果について報告し、研修のあり方と方法について討議した。
4. 今後の研修の継続に関し、その方法などの意見を交換した。
5. 研修修了者によって行われ、あるいは予定されている遺伝相談の現状を報告した。
6. 遺伝相談に関する情報の収集、配布の方法に関し意見を交換し、さらに継続的に運営する具体的方法等を検討した。
7. その他関連する諸問題を検討した。

細 分 課 題 19

日 時 昭和51年11月27日 13:00-17:30

場 所 国際文化会館

出席者 井上英二（主任研究者）、桑木務、半田順俊、藤木典生、大倉興司（以上分担研究者）、植松正、中川米造、藤野志朗、並木信義（以上研究協力者およびその他の参加者）

議 事

1. テーマを〈人権〉、〈遺伝病〉、〈保因者〉、〈価値基準〉、〈文明文化論〉にしぼり、活発な討論をおこない有意義であった。
2. 井上よりメキシコにおける関係学会の印象など報告があった。
3. 半田より〈弘法大師と医道〉について、特別講話があった。